

# 輸出事業計画

※申請者名：神戸市

品目：りんご、ぶどう、かんしょ

## 1. 輸出における現状と課題

### 【現状】

神戸市中央卸売市場本場は、阪神地区等における生鮮食料品流通拠点として、昭和7年（1932年）に開設され、国内外から野菜・果物・鮮魚・塩干物を集荷し、150万人の神戸市民や周辺都市に安定供給している。令和5年度の取扱高は青果部門8万5千トン、水産部門2万5千トンの11万トンである。

輸出の取り組みは農林水産省に提出した「食品等流通合理化事業」計画書において、輸出ニーズに対応できる市場施設（コールドチェーン・加工場整備など）を整備し、神戸港、関西国際空港の両輸出基地を通じて、輸出拠点化していく計画を示している。この計画は令和2年（2020年）4月1日～令和13年（2031年）3月31日までの長期整備事業として始め、整備を進めている。

### 【課題】

- 既存の冷蔵庫棟と市場の卸売場棟・仲卸売場棟が市道高松線で分断されており、荷を移動する際に低温管理（コールドチェーン）ができていない。
- 輸出機能を強化するため、品質を保持した状態で補完する冷蔵環境及び加工機能の強化が必要。
- 国内市場の縮小が見込まれる中、市場の取扱高を上げていくため、市場の集荷力を生かし、人口増や経済成長が見込まれる東南アジアのマーケットへの輸出基地としての展開を計画。
- 神戸市中央市場は北米・欧州の基幹航路をもつ神戸港に隣接しており、関西国際空港に近接している地理条件を生かすことができていない。
- これまでも輸出向けの品目の取扱いはあるが、贈答用に限られており、中間層向けの新たな商流の開拓が必要。

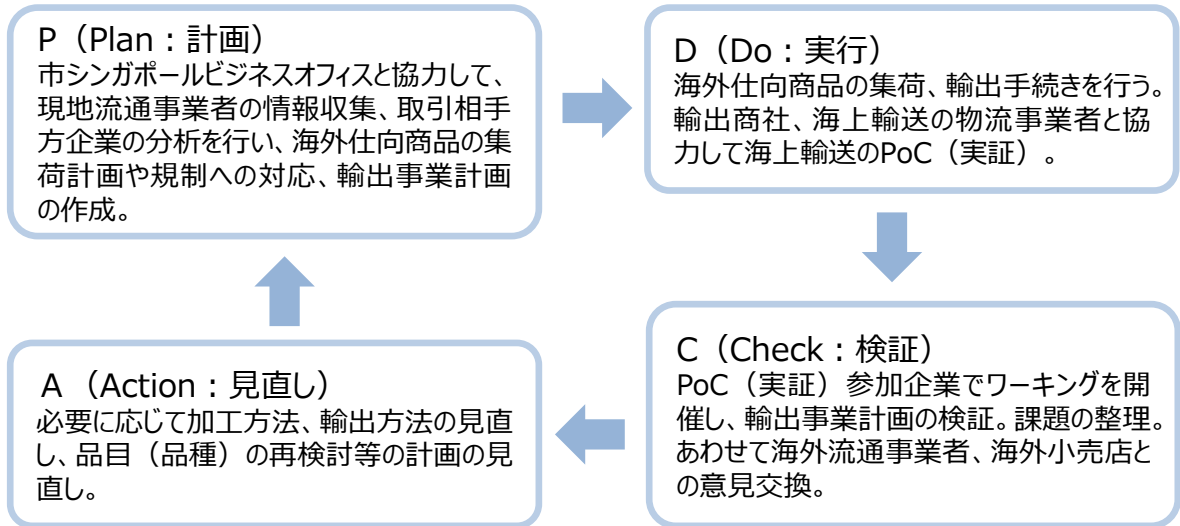
## 2. 輸出事業計画の取組内容

### 【取組内容】（神戸市）

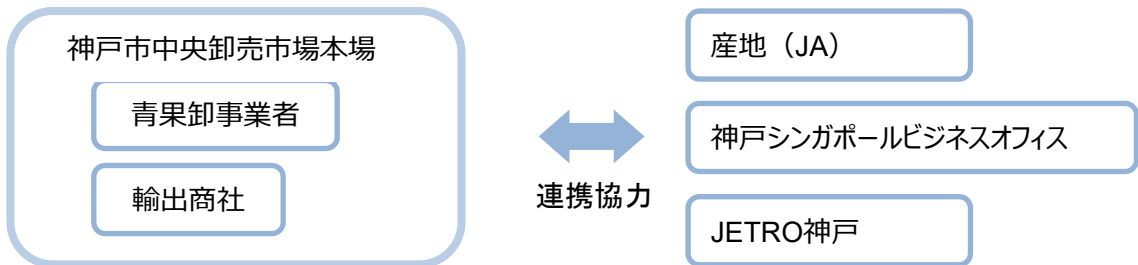
- 新たな冷蔵庫を場内に整備することによって保冷貯蔵機能を高め、輸出対応力を強化するとともに、神戸港に集積する保税・通関サービスを効率的に利用し、規制や輸出障壁への対応、物流コストの削減を通じて、国産農産物の海外市場への展開を推進していく。
- シンガポールに市独自の駐在拠点「神戸シンガポールビジネスオフィス」を開設し、JETROシンガポール事務所の協力を得て、現地の流通事業者の情報収集、ビジネスマッチングを行う。
- 食品分野にテクノロジーを掛け合わせたフードテック系のスタートアップ企業を発掘・育成し、六次産業化した加工品の輸出に取り組む。
- 現地の需要に合わせて、対象品目の拡大に取り組む。
- JETRO事業を利用して、見本市等に参加し、商談会やビジネスマッチングを通じて、海外流通事業者の発掘し販路拡大に力を入れていく。

### 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

【PDCAサイクル図】



【連携体制図】



### 4. 輸出目標額

#### 輸出する農林水産物・食品の現状及び目標

		現状 (令和5年度)	目標年 (令和12年度)
輸出品目 りんご、ぶどう、かんしょ	輸出額 (千円)	425,000	665,000
	輸血量 (トン)	765,550	1,108,600
	輸出先国	台湾、香港、タイ	台湾、香港、タイ、 シンガポール